

皆さんは「タンニン鉄」の名を聞いたことがありませんか、市販品に「メネデル」^①という植物活力素があります。主成分が同じで、簡単に安価に自作できるためYOUTUBEなどでタンニン鉄が密かなブームとなつています。鉄分は私達のからだに必要な微量ミネラル。これは植物では葉緑素を作る大切な材料。土の中に大量に含まれ、植物には吸収され難い形で存在しています。そこで考え出されたのがこのタンニン鉄というわけです。作り方は水にタンニンを含む材料と鉄（錆クギやスチールタワシ）を入れ5日程度置くだけ。

今年、柴田農林高校に「千桜部」という桜の活動をする部が新しくできました。千桜部では現在、このタンニン鉄づくりに取り組んでいて、材料も茶殻やコーヒーかす、期限切れのティーバッグなどゴミ寸前のものから桜の町に因んで桜の落ち葉まで小さなSDGsを実践中です。さらに有難いことに「樹幹注入用タンニン鉄」を開発してくれました。



場合の治療法の一つとして最近専門家の間で多く取り上げられるようになりました。これは地上50cm前後の幹の樹皮から木部に達するようドリルで孔を開け、そこから鉄分（キレート鉄II「メネデル」^①原液）を点滴供給する方法です。鉄はやがて細胞膜を通り葉に供給され葉緑素形成にそして光合成に貢献します。

8月25日、南桜町において柴田農林高校の生徒達に協力をもらいながら桜の治療を行いました（写真）。2本のうち一本は生徒達が開発したタンニン鉄を使用。生徒を見ていて難しい作業ながらも頼もしく見え、伝える大切さを実感したところでした。

第19回 人にも桜にも鉄、鉄で衰退樹を元気にする



町内在住の樹木医

尾形政幸先生の花は桜木

今回紹介した植物活力素を手作りする方法について、尾形先生と千桜部による講習会をお知らせ
 オータムフェスティバル（10月23日（日））において開催する予定です。

- 材 料** 2人分
- ・ツナ缶（ノンオイル）.....小2缶
 - ・卵.....2個
 - ・かぼちゃ.....150g
 - ・片栗粉.....大さじ4
 - ・サラダ油.....大さじ1/2
- [A]**
- ・しょうゆ.....小さじ1
 - ・酢.....小さじ1
 - ・ごま油.....小さじ1/3
- 作り方**



写真は1人分
 【ひとり分栄養価】
 エネルギー：334kcal 塩分：1.1g



ツナとかぼちゃのチヂミ

令和4年度大河原町食育スローガン
 「家族で野菜のおかずをひと皿増やし」

調理担当ヘルスメイトより
ワンポイント

カボチャはビタミンA、C、Eが豊富に含まれる食材です。免疫力アップと疲労回復の効果が期待できます。ビタミンたっぷりのかぼちゃを皮ごとどうぞ！
 ツナと卵が入るのでたんぱく質もしっかりとれます。
 安藤 礼子さん（新田町区）

- ①かぼちゃは、ワタ、タネを除き、水にくぐらせてひと口大に切り、ラップをかけて600Wの電子レンジで4分加熱する。
- ②ボールに卵を割り入れ溶きほぐし、ツナ缶（汁ごと）とざっくりつぶした皮ごとのかぼちゃ、片栗粉を入れて混ぜる。
- ③フライパンに油を熱し、②を広げて入れ、弱めの中火で2～3分ずつ両面を焼く。
- ④食べやすい大きさに切り、Aをつけながら食べる。

Mayor's column
さくら並木
 -町長コラム-



全国並びに県町村会の創立100周年に思う

～人の絆・地域のつながりを大切に、地方からの国づくりに邁進してきた歴史～

大河原町長 齋 清志

郡制が廃止されて、大正10年2月に全国町村会が創立され、その翌年に宮城県町村会も発足の運びとなりました。以来、今年で丁度100周年を迎えることになり、8月24日に記念式典が仙台市内の会場で開催されました。ご来賓として、村井県知事・県議会議長・県選出衆参両院の国會議員・県市長会長・県町村議長会長ほか、全国町村会からは荒木会長にもご出席賜りました。私も主催者側の県町村会副会長として式典に携わることとなり、この上ない喜びを感じたところです。

さて、昨年開催された全国町村会創立100周年記念の荒木会長の式辞の要旨に沿って、この歴史を顧みたいと思います。この100年の前半は、満州・中華両事変から太平洋戦争を経て終戦を迎え、戦後の新憲法のもとで新たな地方制度と市町村のかたちが構築され、我が国の政治経済・文化などすべてが新生・再出発し、奮闘努力を重ねた時代でした。自治体の対応も複雑・多様化する中で、町村はその時代に直面する課題に立ち向かい、町村運営の安定と住民福祉の向上や地域の振興発展に邁進してまいりました。

現在までの半世紀は、昭和から平成に至る社会経済の発展と成熟の時

代を経て、バブル経済が崩壊し、令和の今日まで我が国の経済回復・再生への長い道のりが続くこととなります。そしてこの20年は、町村にとって『地方分権の推進』とともに、『平成の大合併』に象徴される、苦渋の選択と厳しい行財政運営の時代でありました。大災害にも見舞われて数々の要望活動を展開する中で、真の豊かさや安らぎを実感できる地域社会の実現を願いながら、地方自治の最前線で住民とともに行動する町村長の責任と役割の重さに、改めて熱い思いを致すところです。

そして、全国町村会創立100周年の宣言には、『先人たちが英知を集結し、果敢な行動で幾多の困難に立ち向かってきた歴史をしっかりと胸に刻み、コロナ後の社会をさらに発展させ、地域が活力にあふれ光輝く新時代を切り拓くため、全力を尽くすことを誓う』と、町村自治の精神が高く掲げられています。

私も如何なる時も町政の発展を願い、本町らしいまちづくりの推進に没頭してまいりましたが、何時しか18年ほどの月日が流れました。激しい社会経済環境の変化に翻弄されながらも、東日本大震災等の災害危機も乗り越えて、今はコロナ禍の難局への対応に全力投球の日々が続いて



▲県町村会創立100周年記念式典に出席する町長（前列中央）

います。『人の絆・地域のつながり無くしてこれらの苦境は乗り越えられなかった』ということが率直な思いです。そして、困難な地域課題への対応は、町村相互の強固な横のつながりのもと、地方からの国づくりへ力強く邁進する姿に現れているものと受け止めています。

県町村会創立100周年は、単なる通過点ではなく、この歴史を改めて胸に刻みながら未来に継承できる地域づくりとしての決意の出発点でなければならぬと考えると、

（9月15日記）